

ゴツチャ混じりでした。私は大分交通観光バスに永年乗務していましたが、日本の観光地だけで、史跡を巡れなかったのが残念でした。史談会に加わって本当に勉強になりました。役員の方皆さん、今日は誠に有り難う御座いました。（ご苦勞様）

自分の学んだ郷土史学習

河村 幸夫

今回の別府史談会での現地視察に参加し、高等学校で日本史を教えている自分自身にとってたいへん貴重な経験をする事ができました。途中、天気心配もありましたが、参加者の気持ちが届き、運も味方してくれました。視察に参加した理由は、自分の目で実際に見たいということでした。普段、進学指導の中で教科書を中心とした歴史の授業を展開していますが、それだけでなくもう一つ重要なことは、自分が住んでいる郷土の歴史学習が、今求められている主題学習や新しい歴史観を育てる学習につながっていくことだと思ったからです。自分が授業をしたり、学習する中で、「石垣原合戦」という名前は、別府に住んでいる私たちは、聞いたことがあります。でも、何処にあるの？内容は？と聞かれたらすぐには

解答できません。今回の「石垣原合戦」の史跡を巡り、生の歴史教材に触れることができましたが、自分の住んでいる近くにたいへん貴重な史跡があることに驚きました。吉弘神社、古戦場公園、吉弘陣跡、大友本陣跡のような史跡が別府には多く残っています。自分が知らない史跡もたくさんあります。郷土史学習をこれからも続けていき、自分の仕事にこの機会を活かせる実践をしていきたいと思っています。また、杵築城や武家屋敷、大原邸もとてもすばらしい史跡でした。これは、いつまでも残していくべきだと感じました。最後にこのような機会を作っていただきました関係者の方々に感謝申し上げます。どうも有り難うございました。

史跡見学会に参加して

矢野 春海

平成一八年八月二〇日、雨もようで時々雨が降ったが、曇天は炎天より凌ぎ良かったと思いました。

早速吉弘神社に参詣しました。日頃春秋に参拝していますが、細川侯よりの石殿（堂）が何処にあるか知らず、その他石碑石墓や、昔参勤交代の街道の名残の石垣などの存在も知ることができ有り難かった。実相寺山も久方ぶりに登り、こ

の辺りも黒田方の陣地だったのかと改めて知りました。

ルミエールの丘・角殿山々上に当時の史跡を記したものが出来ているのは知っていました。昭和六〇年でしたか、「黒田方母里・時枝軍陣所跡」と記した標柱を、私は写真に撮ってありますが、その頃の林の中の如き様相は今はずっかり変わって大通りになっています。大友本陣跡もお出迎えの方が居られたり、宗像掃部陣所跡も感銘深いものでありました。

杵築での昼食も美味しく。大原邸の見学は説明が行き届いたものであり面白く、昔を偲ぶよすがによろしいものでした。杵築城も、飛行場への道中毎度見上げて通っていましたが、落ち着いて見学出来たのは久方ぶりで会心のものでありました。

綿引東海や今村珠江という方達の石垣原合戦に関する漢詩や、「代から代へ」という吉弘神社の下馬の松登り一句などを勉強して、今から四百六年昔のこの合戦に益々興味を引かれる思いが致します。

元の温研病院の森の中に忠内ヶ堀があるとは知りませんでした。この地に約六〇年住んでいます、このように近くに居ながら、改めてこのような事実を知り得たことは本当に有り難いことで、此処が激戦の真っ只中だったのだと改めて思



院内町鳥居橋

いました。古戦場小公園にもおいで下さり誠に有り難く、今回の見学会に深く感謝するものであります。

史跡探訪の記

佐藤 正映

今年の史跡探訪会は、天台宗の末席に名を列ねる者として、大変参考になる一日であった。国東半島一帯は殆ど訪ねているが、安心院・院内方面にも天台の遺跡や修行跡が多く、昔日の繁栄が目に見えぬ。特に「仙の巖」の威容には驚く。外観だけでなく、遺跡の発掘により、当時の様子が判明できたらと思う。

天台系ではないが、「地獄・極楽」も往時の信仰の深さに感心する。

私が住職を勤めている行橋市の隣町勝山にある「胸の観音寺」では、此処を大型としたような山を信仰霊場として、北九州一帯よりの信者が登ってくる。約壹千年の昔より絶えぬ信者を大事に導くことの責任を痛感している。

現在の世相を考えると、月に一度でいい、家族・友人と観音参りなどで憂さや悩みを晴らす事の素晴らしさを体感頂

きたい。

楢本の石仏群の威容さを見るにつけ、白杵のように風雨を凌ぐ対策を講じ、観光宣伝に力を入れたらと宇佐市に要望したい。

め歴史博物館には何度も行っているが、「み仏の美とかたち」に展示された仏像には圧倒された。翌日太宰府の国立博物館に出かけたが、大分の展示物の素晴らしさは、それに決して劣らないと思う。

私は終生の友として木彫りに励んでいるが、参考になる作品を拝見できて有意義な一日であった。役員の皆さんに感謝申し上げます。

桂昌寺跡 地獄極楽洞窟を見て

会員 清原 明

桂昌寺けいしょうじとは室町中期に開基されたが、江戸中期頃には無住廃寺となったと云う。江戸後期頃、一老僧が復興を悲願して、四国八十八カ所の霊場を巡礼している時、地蔵菩薩じざうぼさつの霊夢を受け、又江戸の傑僧「巍純きじん（午道法印）」と巡りあった。

老僧はこの巍純に事情を話し霊夢のことを告げ懇願して、